

# 「開発途上国の人々の暮らしと国際協力の現場を五感で知る —内戦の遺産と現代カンボジア社会—」

担当教員名 武貞 稔彦／安岡 宏和

## 1 コースの概要

日 程	2013年8月25日～9月1日
場 所	カンボジア王国 (プノンペン、シエムリアップ)
参加人数	24名

## 2 コースの目的

本コースの目的は、経済協力や援助の対象となっている開発途上国とよばれる国や地域の暮らしと人々について、五感を使って知ることです。今年度は典型的な途上国として想起されることの多いカンボジアを訪問し、現地の現実とイメージの異同について考えます。とりわけ、内戦の遺産である多数の「地雷」が人々の生活を未だに脅かしている現状と、いわゆる「貧困」や「幸福」との関係について、異国人である日本人が理解／想像できる範囲という限界も意識しつつ考えることを目的とします。

## 3 事前学習

5月から8月にかけて6回の事前学習を実施しました。支援・援助、歴史、生活、教育、地雷、カンボジア人の想いという6つのグループに分かれ、それぞれカンボジアの歴史と現状や訪問先での学びに必要な情報を整理、共有するべく努めました。また日本とは環境が大きく異なる途上国に訪問するために、現地での滞在中に健康上注意すべきことなども確認しました。

## 4 行程（内容）

### 1日目

朝の飛行機で成田空港出発後、ホーチミン経由で夕刻にプノンペンに到着しました。

### 2日目

午前中は地雷除去を担当するカンボジア政府機関カンボジア地雷活動センター（CMAC）を訪問し、内戦の負の遺産である地雷についてのレクチャーを受け、実物の見学を行いました。午後は、ツールスレン虐殺博物館を見学、その後、日本政府の支援で作られたカンボジア日本人材開発センターをたずね、日本語を学

ぶ現地の人たちと交流会を催しました。

### 3日目

午前中は国際協力機構（JICA）を通じて日本政府が支援した浄水場を見学、午後には JICA カンボジア事務所を訪問し、駐在する職員の方の講義を受けました。その後、NPO 団体の日本地雷処理を支援する会（JMAS）から地雷除去活動に日本の民間団体が果たす役割についてお話を伺いました。

### 4日目

プノンペン市内の王宮と寺院を視察後、キリングフィールドと呼ばれるポルポト時代の史跡を見学、その後陸路シエムリアップに移動しました。

### 5日目

午前中は CMAC が実際に地雷除去活動を行っている現場を視察、地雷の爆破処理に立ち会いました。午後は、日本人教員が活躍するワットポー小学校を訪問し、先生や児童と交流を持ちました。

### 6日目

この日は終日アンコールの遺跡群をめぐり、歴史ある世界遺産を見学しました。

### 7日目

午前中は日本人女性が現地で起業したクルクメール工房というハーブ等を扱う工房を訪問、レクチャーを受けたのち現地従業員にインタビューを実施しました。その後は自由時間とし、夕刻ホテルをチェックアウト、ホーチミンに向け空路出発しました。

### 8日目

ホーチミン経由成田空港に帰着し、空港にて解散しました。



カンボジア地雷活動センター（CMAC）博物館を見学

## 5 事後学習

事後学習は当初から予定されていた公開の事後報告会に向けた準備に主にあてられました。現地滞在中に毎日書きためた気づいたことのカード（全部で1000枚を超えました）をシェアしつつ、事前学習で分かれたグループが現地視察を通じて知ったこと感じたことを報告としてまとめる作業を行いました。特に、「地雷」と「幸福」と「貧困」という三つのキーワードをどう結びつけられるのかということを中心にそれぞれ考察を深めました。学部生や外部の方も交えた事後報告会では、構成や発表などすべて学生自身が行い、あらためて現地視察を通じた学びの成果を確認するとともに、今回できなかったことなど今後の自らの学びに活かせる反省点を見いだしていました。



国際協力機構（JICA）を通じて日本政府が支援した浄水場



日本による国際協力の現場を見学しました。



CJCC（カンボジア日本人材開発センター）交流会



事後報告会にてグループごとに成果をプレゼンテーション

## 学生の声

### 「カンボジア FS に参加して」



1年 今枝 沙織

このFSに参加した理由は幸せとは何かを探すためです。カンボジアに行って文献では伝わらない世界に、めんくらいました。

中でもトンレサップ湖で水上生活している家族が、ハンモックに揺られて昼寝をしていた姿を見て、これが今まで私が負い目を感じてきた途上国の人たちの姿かと思うと、なんだか拍子抜けしてしまいました。と同時に、遠く離れた人々の幸せについて考えた事はあっても、身近な家族の事を考えたことなんてこれっぽっちもない事に気が付きました。これを機会に少し、自分の行動のとり方が変わりました。今までよりも家族や近くにいる人、地域、日本について興味を持ち大切にするようになりました。